

第25期 科学者委員会 学協会連携分科会 第8回分科会議事要旨

- 1 日時 令和5年2月17日(水) 13:00~15:00
- 2 場所 オンライン会議
- 3 出席者 勝野正章委員、溝端佐登史委員、若尾政希委員、小林武彦委員、小松浩子委員、丹下 健委員、望月眞弓委員、高田保之委員、田近英一委員、米田雅子委員、高倉喜信委員、北川雄光委員、熊谷日登美委員、中野義昭委員、川口慎介委員
欠席者 山口 周委員
事務局 内山貴裕、大越詳一

4 議題

(1)「日本学術会議の在り方についての政府方針」のアカデミアに及ぼす影響について

- ・米田委員長から開催趣旨について説明があった。
- ・続いて望月副委員長から、「日本学術会議の在り方についての政府方針」に対して日本学術会議が懸念事項を示して発出した声明：内閣府「日本学術会議の在り方についての方針の再考を求めます」について説明された。続いて、昨日(令和5年2月16日)の臨時幹事会での内閣府担当官から説明のあった「日本学術会議法の見直しについての検討状況」について報告があった。
- ・政府方針に対する懸念事項に対する内閣府担当官からの回答について、委員からは、会員選考における選考諮問委員会の委員構成・権限や事業計画の取り扱いの詳細が不明であり、独立性に担保に関する懸念が解消される説明がなされていないとの意見が多かった。
- ・改正法案の法文に基づいた議論の必要性が指摘された。
- ・政府等と問題意識と時間軸等の共有について、社会と時間軸を共有する場合もあるのではないか、選考諮問委員会について、会員選考プロセスの適切性の外部評価はあり得るのではないかとの意見もあった。
- ・学協会との連携に関して、米田委員長から日本学術会議が発出した声明：内閣府「日本学術会議の在り方についての方針の再考を求めます」を支持する旨の声明等が、学協会や学協会連合体等から発出されている状況について紹介があった。
- ・学協会や社会との連携を促進するためには、研究者や市民にこの問題の重要性を理解してもらう必要があり、学問の自由を守るために政府からの独立性の担保を訴えることに集中すべきではないかとの意見があった。
- ・米田委員長から、状況に変化があれば、会員・連携会員や学協会と速やかに共有したい旨の発言があった。